

# アメリカ発! 市民のなかに吹く風

## THE WIND OF AMERICA 9月11日号 最終号

ずっと晴天続きだったニューヨークの空も、今日は朝から雨模様です。偶然とはいえ、出発の日が9.11ということにちょっとしためぐり合わせを感じつつ、一行はニューアーク空港から日本に向けて飛び立ちました。

10日間にわたってお送りしてきた「風」も、これがいよいよ最終号。

このニューオリンズ→ニューヨークの10日間で私たちは、本当に多くの学びと気づき、そして良き出会いに恵まれました。アメリカで感じた「風」、その全てを伝えるには言葉や文字はあまりに不自由すぎると、今感じています。

それでもやはり、日本に帰り、職場や地域に戻って一人ひとりが感じたことを、それぞれなりの言葉や文字にできるだけ多くの人たちに伝えていかなければならないと思います。それが我々をこの旅に送り出してくれた人たち、そして我々をアメリカで温かく迎えてくれた人たちへの最大の感謝の表し方だと考えるからです。

今日でひとまず我々のアメリカの旅は終わります。

そして明日からは、今度は私たち自身が日本で新たな「風」を吹かせていくためのチャレンジが始まります。

それでは「アメリカ発! 市民の中に吹く風」最終号、最後は我々が団長・ミスター上原に締めていただきましょう。

(菅野)

### 上原研修ツアー団長、最後の挨拶

「THE WIND OF AMERIKA～アメリカの風～」の最後の原稿は飛行機の中からです。行きと同様に12時間を越えるフライトの最中、原稿に向かっています。

今回の東災ボの研修チームにメンバーを派遣して下さった多くの日本の団体の皆さまと、そのチームをアメリカで迎えてくださり、多くの気づきを与えて下さったアメリカの皆さまとアメリカの大地、その双方の方々に深く感謝申し上げます。

私たちのチームは、今、たくさんのことに気づき、多くの人々との出会いの意味の深さを胸に秘めて帰国の途についております。



「ニューヨークラーメン」のひとコマ

研修を準備しているときに感じていたいくつかの不安と課題は、素晴らしいチームワークといくつかの幸運のおかげで全て解消することができました。何よりも幸いだったのは、誰もが体調を崩すことなく、かなりハードなスケジュールを、最後まで好奇心と情熱を絶やさずことなく仲良く過ごせたことです。

今回の、東災ボにとって初めての海外研修事業の内容は、連日、この「風」を通じて発信され続けました。決して上手い文章で綴られたわけではありませんが、メンバーは精一杯この「風」の中で報告し続けました。あえてこの場で報告する必要はありません。その内容は、出

発前の予想をはるかに超えた素晴らしい内容の連続であり、多いなる気づきの連続であったことは、その報告を読めば明らかです。

ただ、今回、アメリカ研修で得たこの良き気づきが、参加した一人ひとりの「個人の記憶」の中に留まってしまっただけではその意味が半減してしまいます。私たちは「個人の記憶(個人の気づき)」を、「集団としての記憶(集団としての気づき)」に深められるよう今後も努力を続けていく必要があります。



9/8のボランティア参加メンバー

東災ボは今日まで災害課題を通じてさまざまなネットワークを拡げてきました。そのネットワークは、心からの信頼を基にされ、常に連携を深め、具体的な課題に挑戦していく力と可能性になっています。

同時に、東災ボはその成り立ちやこれまでの事業、その全過程は、私たちの国の市民社会の発展を願ってのものであり、自らも集団としての市民事業のあるべき姿を追求してきました。

今回のアメリカ研修は、メンバーの一人ひとりにとって貴重な体験となりました。同時に、日本の市民社会の発展を願い、自ら市民事業を模索している東災ボにとっても、とても良い「学びの体験」となりました。これからの東災ボのあり方・方向性のヒントになると同時に、日本の市民社会の発展のヒントすら感じられた気がします。

まもなく帰国します。まもなくどのメンバーも日常に戻っていきます。私も例外ではありません。東災ボも例外ではありません。

私は帰国後、そのまま「みやけじまく風の家」を支援くださっている日本建築学会を訪問します。東災ボ事務局は、明日からは、当面する最大の取り組み課題である「首都圏統一帰宅困難者対応訓練」事務局としての日々が再開されます。

東京で私たちの帰りを待ってくれる友人たちと、引き続き今までと決して大きくは変わらない日常を精一杯歩みたいと思います。

上原泰男



NO市下9区地区視察。カトリーナの被害の大きさを感じた場所でした

### 日米災害 NPO 交流研修ツアー参加者一覧

参加者氏名	所属	参加者氏名	所属
上原泰男	東京災害ボランティアネットワーク	佐々木実	連合東京 VSC(町田市職)
青山やすし	明治大学公共政策大学院	友田英之	連合東京 VSC(ミネバア(株))
伊野瀬十三	東京都生協連	北島英記	連合東京 VSC(㈱東芝)
庭野良也	東都生協	平野亮	連合東京西北地協
生原勇	COOP 災害ボランティアネットワーク	清水和良	東京都共同募金会
佐々木一如★	日本都市センター	坂上幸一郎	みやけじまく風の家>
真島明美	連合東京	菅野道生★	東京ボランティア・市民活動センター
吉田裕華★	連合東京 VSC(三菱重工(株))	福田信章★	東京災害ボランティアネットワーク

- ・なお、この上記メンバー以外に、市原京子さんがNYの期間、ワシントンから参加くださいました
- ・★印が編集委員としてこの紙面作成を担当していました

### 日米災害 NPO 交流研修ツアー 9月11日行程

早朝 ニューアーク空港へ  
 11:40 コンチネンタル9便で成田空港へ  
 13時間後 日本時間9/12PMに成田空港着  
 空港到着後、解散



10日間にもおよび研修ツアーも終了です。この「風」は、また別の姿形で皆さんにお届けしたいと思っています

### 編集後記

この日刊ニュースも今回が最終号。思えば、わずかに10日間ばかりの短い研修の報告ニュースだったわけだが、編集の力不足が大きく、参加者からいただいた報告の半分も伝えられなかったのではないかと心配は拭えない。

というのは、建前で、本っ当に大変でした。

原稿が手元に届くのは、多くの場合、22~23時。下手すりゃ夜中の0時半とか。それから、編集後記執筆→入力→レイアウト→校正→送信という流れで、スムーズにいても夜中の2時。しかしスムーズにいったのは最終日間近の夜だけ。ほとんどが3時過ぎ。それを10夜続けりゃ、キツイのは当たり前。

でもですね。それでも、この作業が今日(明日?)からなくなると思うと、かなり寂しい感じがするんですよ。寝不足連発でキツイはずなのに、楽しかったんです。それも、「とても」ですよ。

それぞれの原稿は、少ない文字数に四苦八苦し、幾度も書き直しているメモだったり、入力する段になって「書き直してイイ?」が入ったり。それぞれの思いが詰まったニュースを仕上げる作業は、この研修の大きな楽しみになってました。

「風」に詰まったそんな思いが、配信させていただいた皆さんに、少しでも伝わっていただければ幸いです。ツアー参加者の気づきを、このニュースを読んでくださった皆さんとも共に気づけていたら。そんな大仰なことを考えながら最後の編集後記を機中で書いています。ありがとうございました。(福田)